

EPSON
EXCEED YOUR VISION

2013年度(2014年3月期) 第2四半期 決算説明会

2013年10月31日

セイコーエプソン株式会社

©SEIKO EPSON CORPORATION 2013. All rights reserved.

■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

本説明資料に記載されている将来の業績に関する見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づく将来の予測であり、潜在的なリスクや不確定要素を含んだものです。

そのため、実際の業績はさまざまな要素により、記載された見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える要素としては、日本および海外の経済情勢、市場におけるエプソンの新商品・新サービスの開発・提供とそれらに対する需要の動向、価格競争を含む他社との競合、テクノロジーの変化、為替の変動などが含まれます。

なお、業績等に影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。

■ 本説明資料における表示方法

数値： 表示単位未満を切り捨て

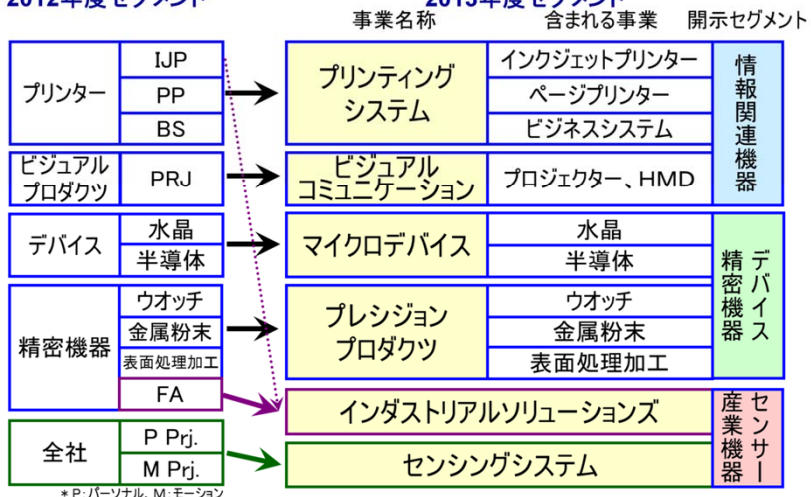
比率： 千円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入

開示セグメントの変更について

SE15後期 新中期経営計画の事業戦略にもとづき、
将来にわたっての成長領域を再定義するとともに各領域における取組みを、
より明確にして加速させるために、2013年度から組織体制を整える

2012年度セグメント

2013年度セグメント



- 2013年度予想の比較説明においては、2012年度のセグメント損益もあわせて補正
- 事業譲渡をした光学事業は、「全社セグメント」に含まれる

2

■ 開示セグメントの変更内容

1. 概要

2. 詳細

決算ハイライト（中間決算）



(億円)	2012年度		2013年度				増減額 / 増減率	
	実績	%	7/31予想	%	実績	%	前期実績比	前回予想比
売上高	3,882	-	4,500	-	4,686	-	+803 +20.7%	+186 +4.1%
営業利益	△141	-3.6%	130	2.9%	340	7.3%	+481 -	+210 +161.8%
経常利益	△141	-3.7%	90	2.0%	306	6.5%	+448 -	+216 +240.5%
税引前利益	△296	-7.6%	70	1.6%	285	6.1%	+581 -	+215 +307.7%
純利益	△354	-9.1%	10	0.2%	184	3.9%	+538 -	+174 -
EPS	△198.15 円		5.59 円		103.09 円			
換算 レート	USD	79.41円	94.00円		98.85円			
	EUR	100.64円	124.00円		130.00円			

前回予想 第2四半期以降の予想前提レート
USD: 90.00円、EUR: 120.00円

4

■ 2013年度 中間決算の実績

- 上期は、売上高が前年同期比 803億円増収の 4,686億円、営業利益は 481億円増益の 340億円、純利益は 538億円増益の 184億円。
- 7月31日に発表した前回予想に対しても売上高、ならびに各段階利益において大幅に上回った。

決算ハイライト（第2四半期決算）



(億円)	2012年度		2013年度		増減額 / 増減率 前期実績比	7/31前回予想(参考)	
	2Q実績	%	2Q実績	%		上期予想から1Q実績を控除	%
売上高	2,019	-	2,484	-	+465 +23.0%	2,298	-
営業利益	19	1.0%	260	10.5%	+240 -	49	2.2%
経常利益	22	1.1%	257	10.4%	+235 -	41	1.8%
税引前利益	22	1.1%	252	10.2%	+230 -	37	1.6%
純利益	△9	-0.5%	183	7.4%	+192 -	8	0.4%
EPS	△5.48 円		102.38 円				
換算 レート	USD	78.63円	98.95円			90.00円	
	EUR	98.36円	131.05円			120.00円	

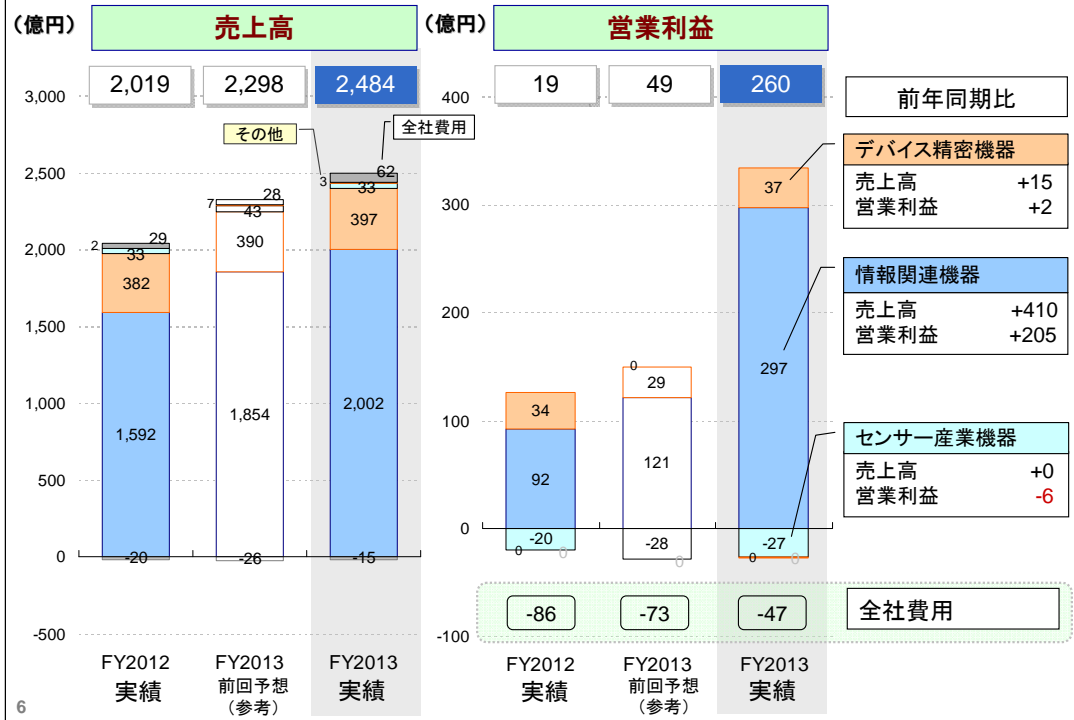
5

前回予想 第2四半期以降の予想前提レート
USD: 90.00円、EUR: 120.00円

■ 2013年度 第2四半期の決算ハイライト

- 売上高が前年同期比 465億円増収の 2,484億円、
営業利益は 240億円増益の 260億円、
純利益は 192億円増益の 183億円。
- 参考に 前回7月31日に公表した上期予想から
第1四半期実績を差し引いた 第2四半期の数値を記載。
- 同様に次のスライドにおいても参考として記載。

2013年度第2四半期業績▶事業セグメント別



■ 2013年度 第2四半期の売上高、営業利益のセグメント別内訳

- 情報関連機器、デバイス精密機器を中心に前年度実績を大幅に上回った。業績の改善のポイントについては、次のスライドで説明。

第2四半期 業績のポイント(前年同期比)



- 情報関連機器を中心に、従来から進めてきた戦略が着実に成果として表れ、円安効果もあり売上高、ならびに各段階利益において大幅な増収・増益

情報関連機器セグメント

インクジェットプリンター事業

- モデルミックスの改善ならびに平均販売単価の上昇
 - ✓ 先進国市場におけるローエンドモデルの絞り込みに加え、オフィス向けを含むハイエンドモデルのラインアップ強化、ならびに価格施策
 - ✓ 新興国市場向けに大容量インクタンクモデルが大幅に数量増
- 本体のモデルミックス改善の効果による消耗品売上増
- 商業プリンター *1の新製品効果による数量増



*1: 64インチまでの大判プリンター

7

■ 2013年度 第2四半期における業績のポイント

- スライドに準じ、説明。

第2四半期 業績のポイント(前年同期比)



ビジネスシステム事業

- SIDMは中国市場における堅調な需要による数量増
- POS関連製品の北米における市場回復

ビジュアルコミュニケーション事業

- 北米のビジネス向け、欧州、中国における教育向けを中心に過去四半期最高の販売数量を達成

デバイス精密機器セグメント

マイクロデバイス事業

- 競合他社の円安を背景とした値下げによるプライスエロージョンの進行

プレシジョンプロダクツ事業

- 国内向け、高価格帯製品が堅調に推移

全社費用

- 保有特許の有効活用による特許料収入

8

■ 2013年度 第2四半期における業績のポイント

- スライドに準じ、説明。

2013年度業績予想



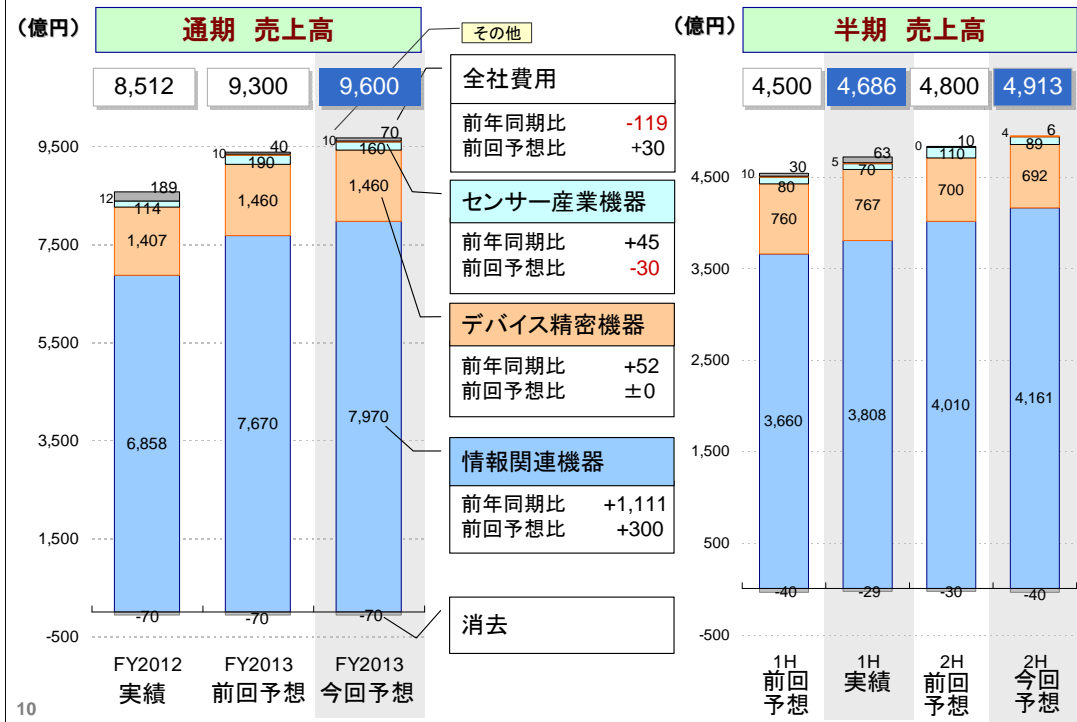
(億円)	2012年度		2013年度				増減額 / 増減率	
	実績	%	7/31予想	%	今回予想	%	前期実績比	前回予想比
売上高	8,512	-	9,300	-	9,600	-	1,087 +12.8%	+300 +3.2%
営業利益	212	2.5%	370	4.0%	580	6.0%	+367 +172.9%	+210 +56.8%
経常利益	176	2.1%	330	3.5%	550	5.7%	+373 +212.0%	+220 +66.7%
税引前利益	△34	-0.4%	260	2.8%	480	5.0%	+514 -	+220 +84.6%
当期純利益	△100	-1.2%	150	1.6%	340	3.5%	+440 -	+190 +126.7%
EPS	△56.41 円		83.85 円		190.06 円			
換算 レート	USD	83.11円	92.00円		97.00円		今回予想 3Q以降の予想前提レート USD: 95.00円 EUR: 125.00円	
	EUR	107.14円	122.00円		127.00円			

前回予想 第2四半期以降の予想前提レート
 USD: 90.00円、EUR: 120.00円

■ 2013年度の通期業績予想

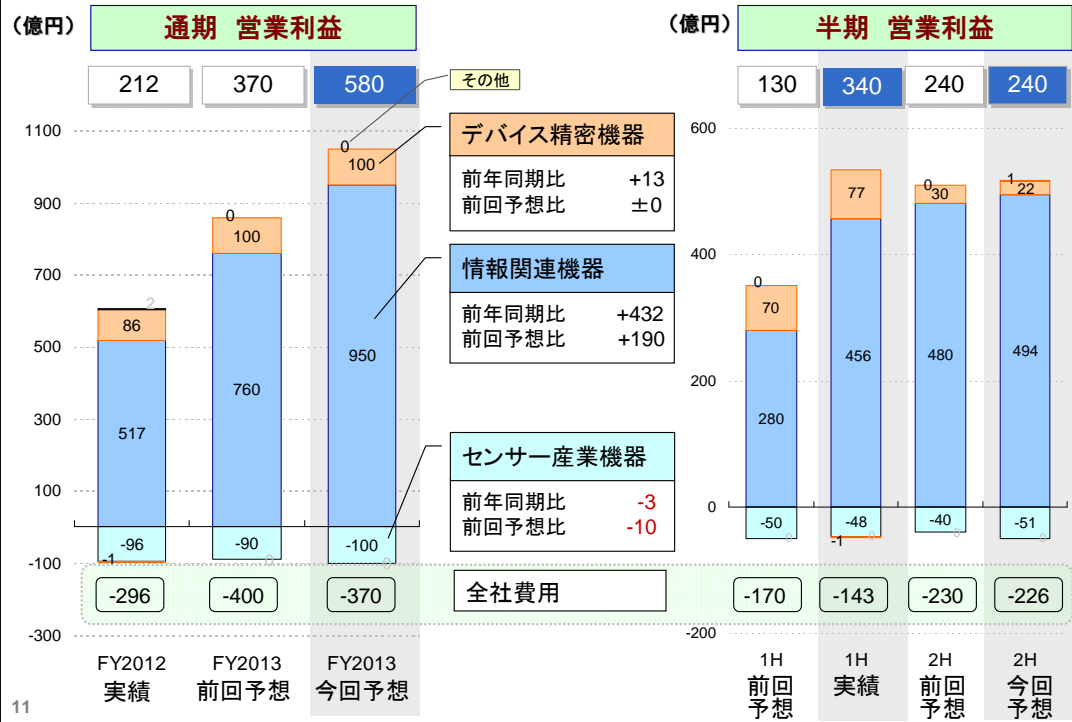
- 売上高は、前回予想を 300億円上回る 9,600億円、
営業利益は、210億円上回る 580億円、
当期純利益は、190億円上回る 340億円に上方修正。
- 今回予想においては、直近の為替動向を反映し、
第3四半期以降の予想前提レートをUSDドル95円、ユーロを125円に変更。
- 業績予想のポイントの前に、
各セグメントの売上高ならびに営業利益の内訳を表示。

2013年度業績予想(売上高)▶事業セグメント別



■ 2013年度の事業セグメント別売上高予想、上期 / 下期別の内訳

2013年度業績予想(営業利益)▶事業セグメント別



■ 2013年度の事業セグメント別営業利益予想、上期 / 下期別の内訳

直近動向を踏まえ、第3四半期以降の為替前提をUSD:95円、EUR:125円に見直しを行い、業績予想に以下の要素を織り込む

情報関連機器セグメント

- 市場環境は上期に比べて大きな変化は見込まれない中、インクジェットプリンターを中心に、中期経営計画に基づく施策への取り組みを継続することで、前回の下期営業利益予想の着実な達成をベースに、為替前提の変更分を加えて上方修正

デバイス精密機器セグメント

- マイクロデバイスは、プライスエロージョン進行などの影響を加味し下方修正

センサー産業機器セグメント

- 新規事業の商品展開の遅れにより前回予想から下方修正

12

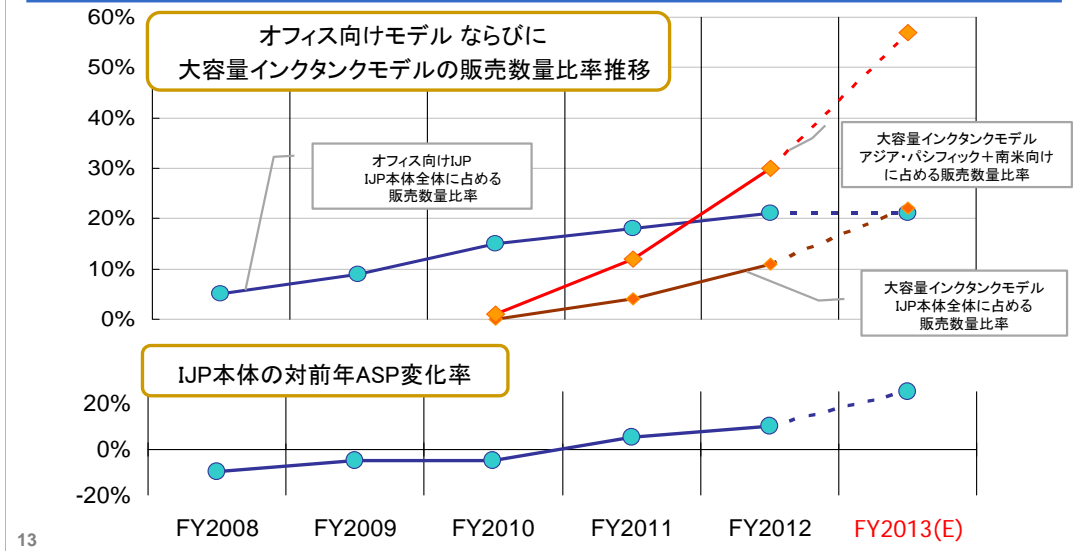
■ 2013年度 通期業績予想のポイント

- スライドに準じ、説明。

SE15後期 中期経営計画の進捗(1)



- オフィス向けIJP本体の販売数量比率は2013年度は20%強の見込み。急激な数量比率拡大は前提とせず、ラインアップ拡充で着実にMIF構成を改善。
- 大容量インクタンクモデルは、2013年度のアジア・パシフィックや南米の販売数量比率は、期初は50%弱を見込んでいたが、最新見込は50%超の水準へ。



■ SE15後期 中期経営計画の戦略の進捗

- スライドに準じ、説明。

SE15後期 中期経営計画の進捗(2)



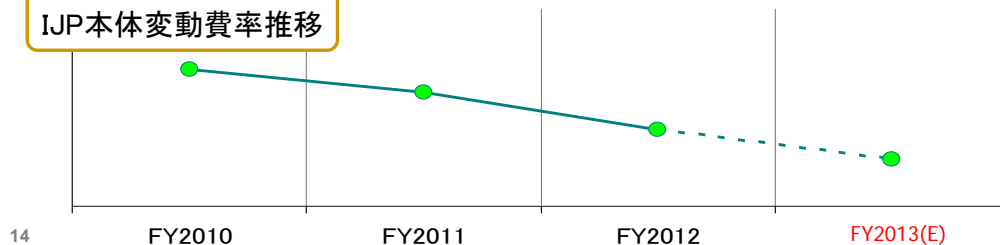
- モデルミックスや平均販売単価の改善に加え、コストダウンへの取り組みによりIJP本体の変動費率は着実に改善。
- 損益面でも改善効果が表れており、2013年度は大幅な収益性の改善を見込む。

IJP本体 小型化の全面展開

日本国内市場向けカラリオ10機種13モデルを9月3日に発表。
全ラインアップにおいて、小型スタイリッシュを実現。



IJP本体変動費率推移



■ SE15後期 中期経営計画の戦略の進捗

- スライドに準じ、説明。

1. 概要

2. 詳細

1) 2013年度 第2四半期決算

2) 2013年度 業績予想

決算ハイライト（第2四半期決算）



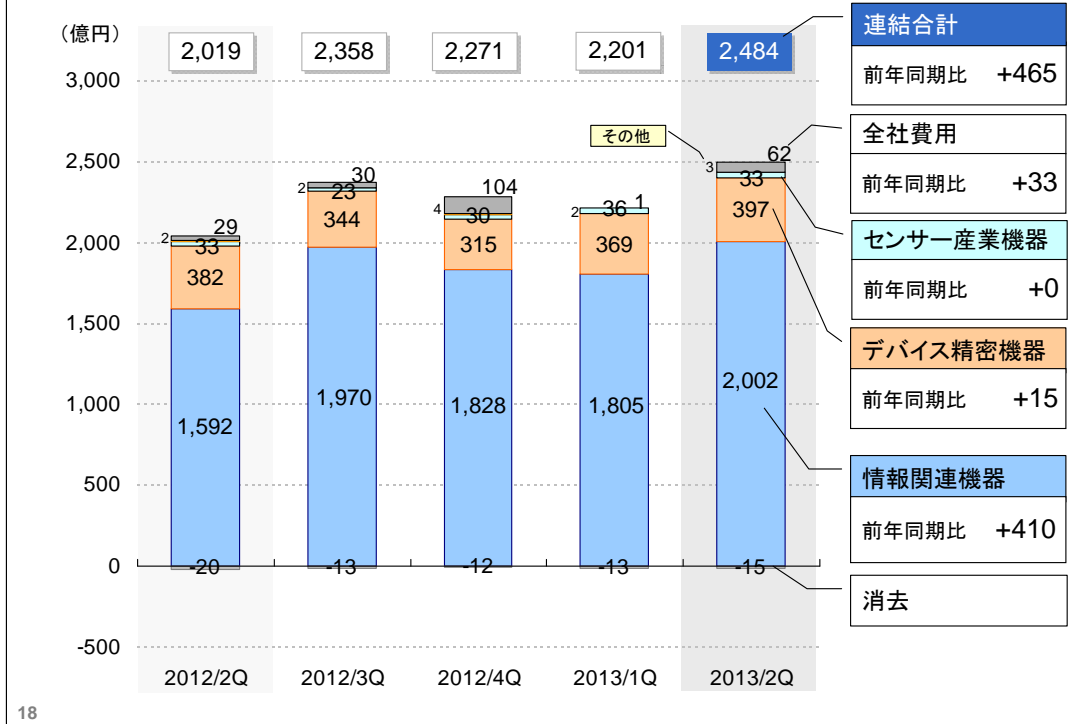
(億円)	2012年度		2013年度		増減額 / 増減率 前期実績比	7/31前回予想(参考)	
	2Q実績	%	2Q実績	%		上期予想から1Q実績を控除	%
売上高	2,019	-	2,484	-	+465 +23.0%	2,298	-
営業利益	19	1.0%	260	10.5%	+240 -	49	2.2%
経常利益	22	1.1%	257	10.4%	+235 -	41	1.8%
税引前利益	22	1.1%	252	10.2%	+230 -	37	1.6%
純利益	△9	-0.5%	183	7.4%	+192 -	8	0.4%
EPS	△5.48 円		102.38 円				
換 算 レ ー ト	USD	78.63円	98.95円			90.00円	
	EUR	98.36円	131.05円			120.00円	

17

前回予想 第2四半期以降の予想前提レート
USD: 90.00円、EUR: 120.00円

■ 2013年度 第2四半期の決算ハイライト

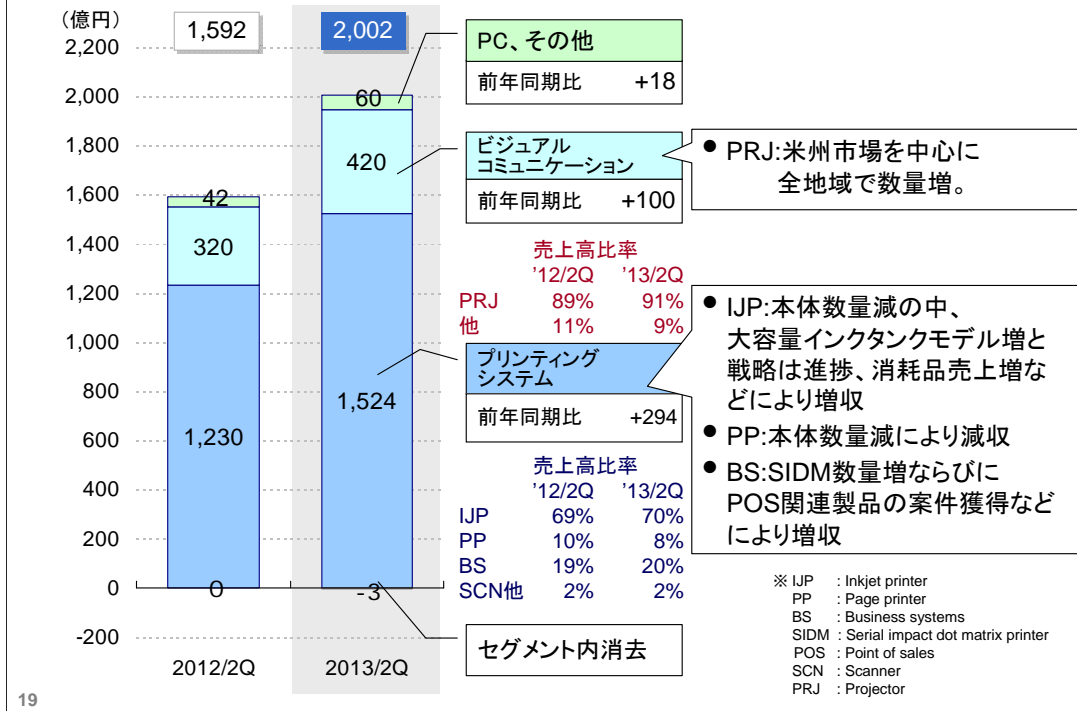
四半期売上高推移 ▶ 事業セグメント別



■ 事業セグメント別の 四半期売上高推移

- 情報関連機器は、前年同期比 410億円の増収、デバイス精密機器は、前年同期比 15億円の増収。
- センサー産業機器は、インダストリアルソリューションズ事業において中国を中心とした新興国向けのロボットが牽引したものの、ハンドラーなどにおいて顧客の投資控えがあったことから前年並みの売上高。
- なお、当四半期の売上高の為替影響は、情報関連機器セグメントを中心に、前年同期比で約394億円のプラス影響。

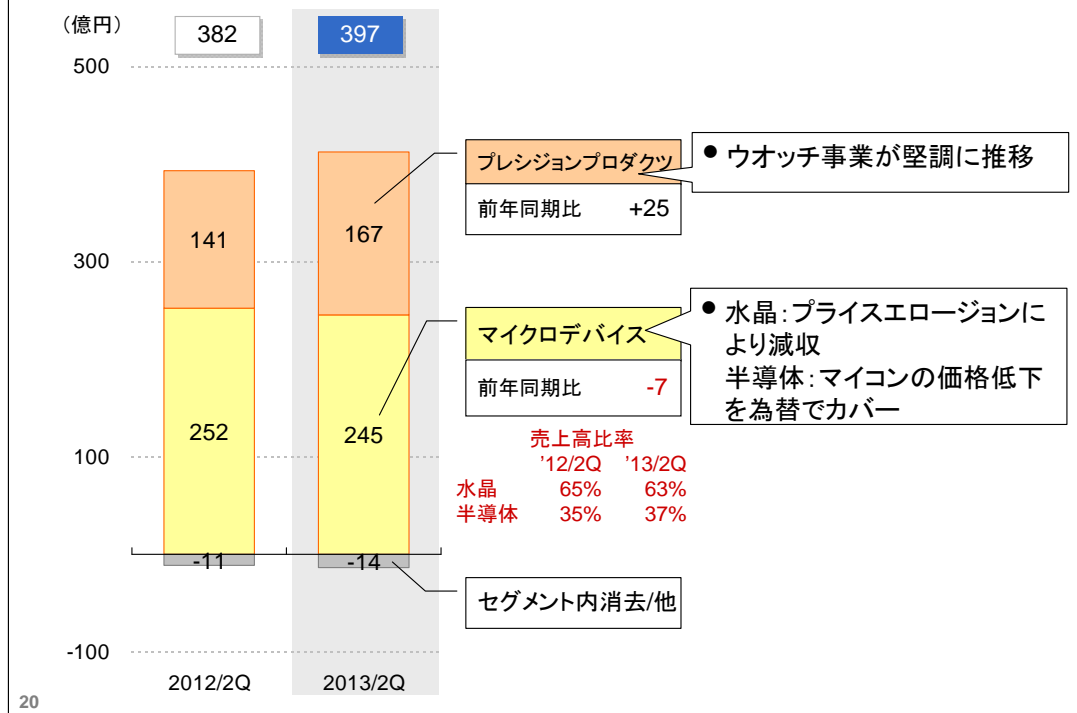
四半期売上高比較 ▶ 情報関連機器セグメント



■ 情報関連機器事業セグメントの 第2四半期 売上高

- 当セグメントでは全ての事業が、円安による効果があった。
- プリンティングシステムは、294億円の増収。
- インクジェットプリンターは、本体は数量減となったものの、モデルミックスの改善や平均販売単価の上昇、ならびに消耗品売上が増加したことにより、増収。本体の地域別状況については、日本、欧州市場が前年割れとなる中、当社でも日本、欧州市場において数量減となったが、北米市場においては高価格帯への注力しつつ前年並みの数量を確保、新興国向けには、大容量インクタンクモデルの販売を大幅に伸ばすなど、事業戦略を着実に進捗。
- 商業向けの大判プリンターにおいても、米国での案件獲得などにより数量増。以上の結果、インクジェットプリンター事業は、前年に対し増収。
- ページプリンターは、低価格モデルの数量の絞り込みにより減収。
- ビジネスシステムおよびビジュアルコミュニケーションは、前述のとおり。
- 前回予想との比較は、次のとおり。
- インクジェットプリンター事業は、本体数量は未達となったものの、消耗品が欧州において好調に推移したことや、円安効果もあり、前回予想を上回った。
- ビジネスシステム、ページプリンターならびにビジュアルコミュニケーションは、販売数量は未達となったものの、為替の効果もあり前回予想を上回った。

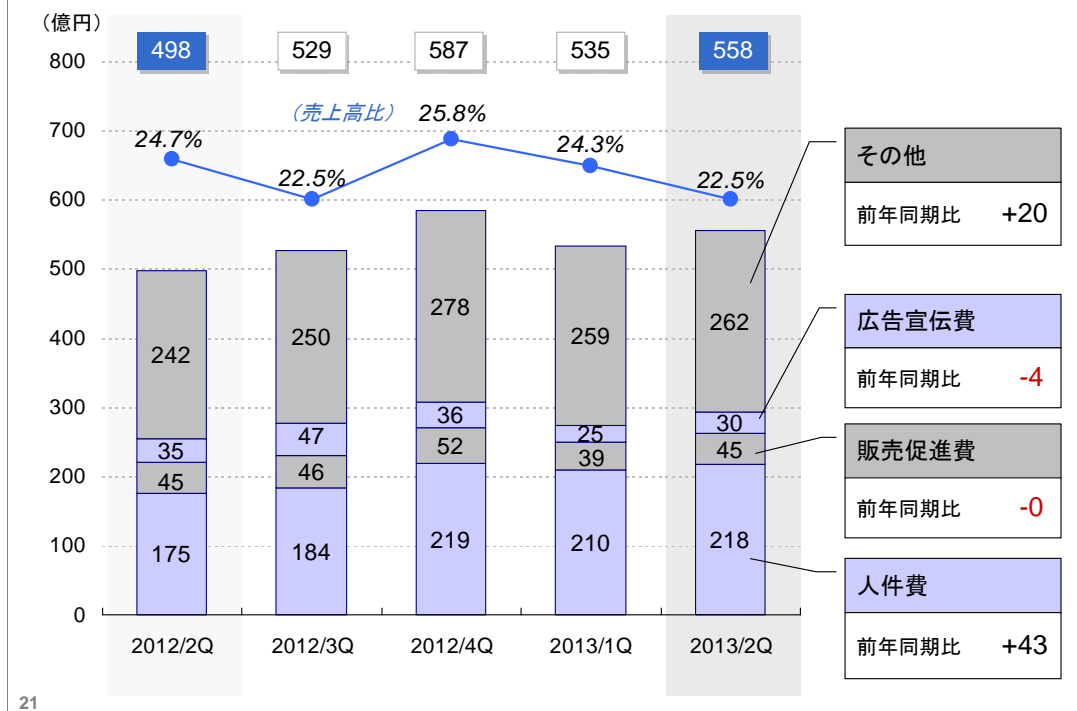
四半期売上高比較 ▶ デバイス精密機器セグメント



■ デバイス精密機器事業セグメントの 第2四半期売上高

- マイクロデバイスは、半導体は、マイコンの価格低下などがあったものの円安の為替影響により前年並み、水晶は、プライスエロージョンなどによる減収で、マイクロデバイス事業全体で減収。
- プレジジョンプロダクツは、ウオッチ事業において、国内向け高価格製品が堅調だったことに加え、海外向けの数量増により増収。
- 前回予想との比較では、マイクロデバイス事業はほぼ想定どおりだったものの、プレジジョンプロダクツはウオッチ事業において国内向けブランド品が堅調に推移したことや、円安効果もあり、前回予想を上回った。

四半期販売費及び一般管理費推移

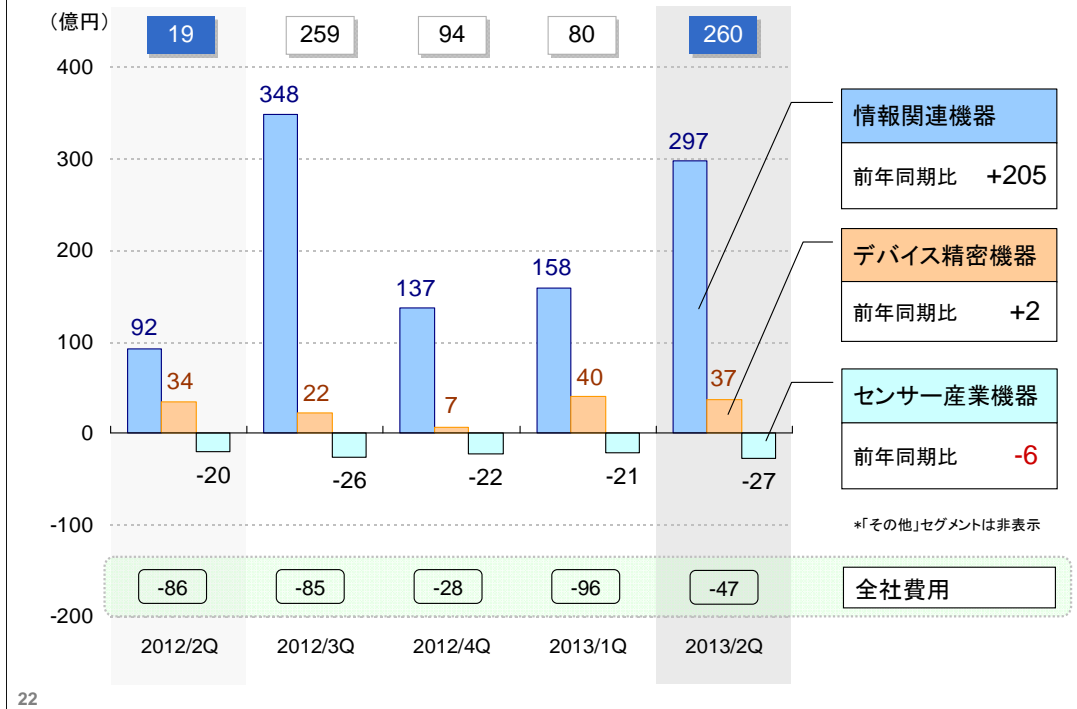


21

■ 販売費及び一般管理費の四半期推移

- 円安による影響もあり、人件費は増加したものの、広告宣伝費ならびに販売促進費の効率的な執行に努めたことや、一部下期への先送りによる影響もあり、売上高に占める比率は、前年同期を下回る水準。
- 為替影響を除いた販売費および一般管理費の総額は前年並みの水準。

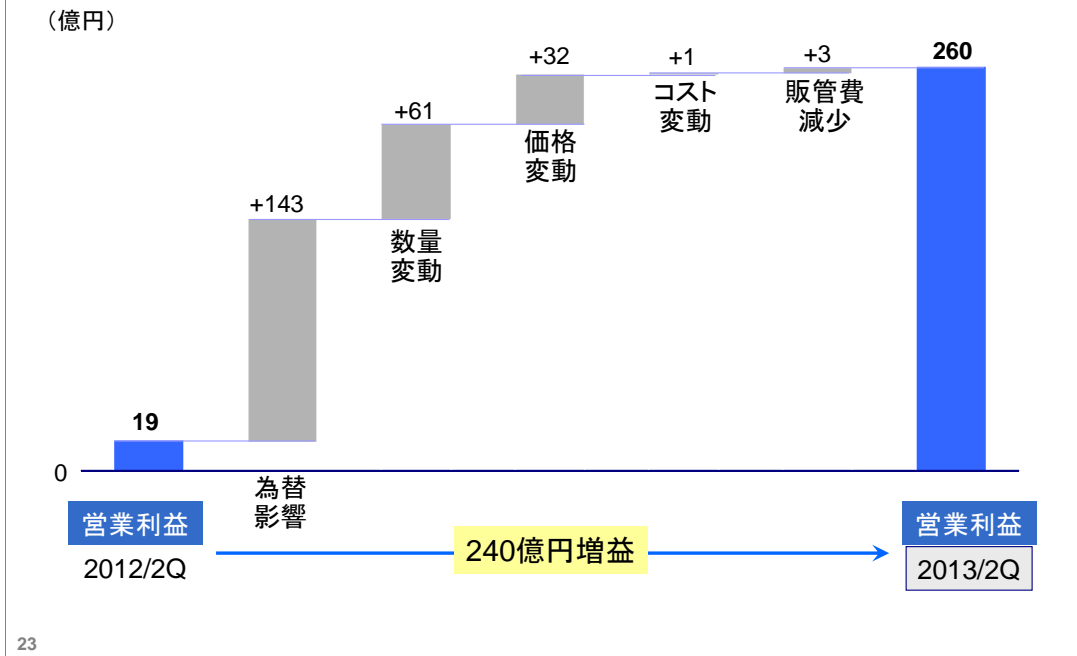
四半期営業利益推移 ▶ 事業セグメント別



■ 事業セグメント別の 四半期営業利益推移

- 当四半期は、全社として、為替の円安効果は前年同期比で約143億円のプラス影響。
- 情報関連機器は、前年同期比 205億円増益の297億円。
- インクジェットプリンターは、消耗品の増収と、本体のモデルミックスならびに平均販売単価の改善に加え、収益性のより高い商業プリンターの増収などにより、大幅な増益。
- ビジネスシステム、ならびにビジュアルコミュニケーションも、増収により増益。
- ページプリンターは、減収となったものの、低価格モデルの絞り込み効果などにより前年並み。
- デバイス精密機器は、ウォッチがモデルミックスにより減益となったものの、マイクロデバイスにおけるコストダウンへの取り組みや要員構造改革の効果などにより、前年同期比 2億円増益の 37億円。
- センサー産業機器は、前年同期に比べ減益。
- 前回予想との比較では、情報関連機器セグメントはインクジェットプリンターにおける増収に加え、変動費のコストダウンや、固定費の効率的な執行ならびに一部下期への先送りなどにより、予想を上回った。また、全社費用セグメントにおいては、前回予想に織り込んでいた案件に加え、新たな特許料収入の計上あり。さらに、全般における円安による為替効果もあり、会社トータルで前回予想を上回った。

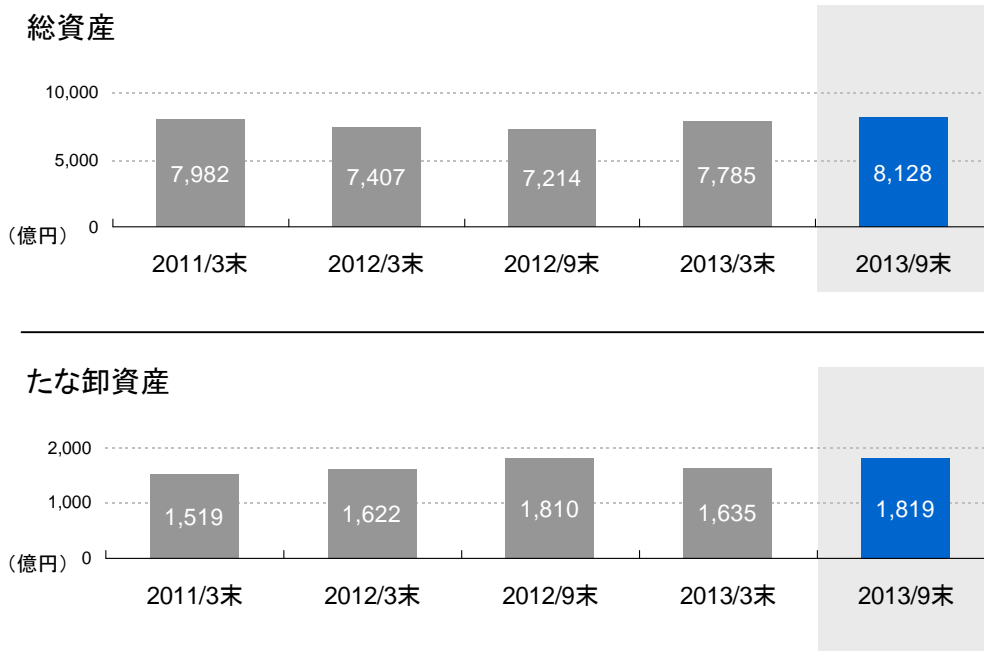
営業利益増減要因分析



■ 営業利益の前年同期比の要因分解

- 2012年度 第2四半期の営業利益 19億円 に対し、為替影響、数量変動、価格変動などの 増益要因により、四半期営業利益は 260億円。

貸借対照表主要項目推移



24

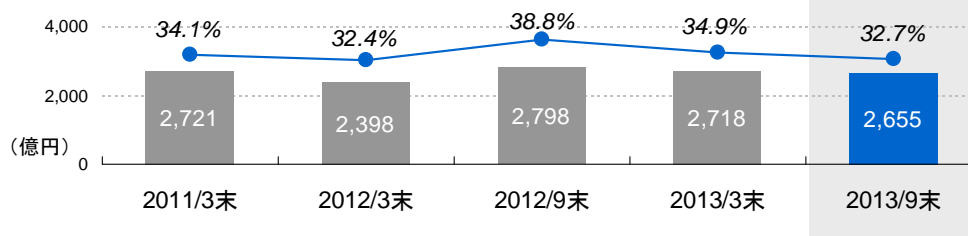
■ 貸借対照表の主要科目

- 総資産は、手元資金や たな卸資産の増加などにより前期末に比べ 343億円増加。
- たな卸資産については、年末商戦期に向けた生産数量の増加に加え、円安による為替換算の影響により前期末に比べ増加しているが、為替影響を除けば、計画並みの水準。

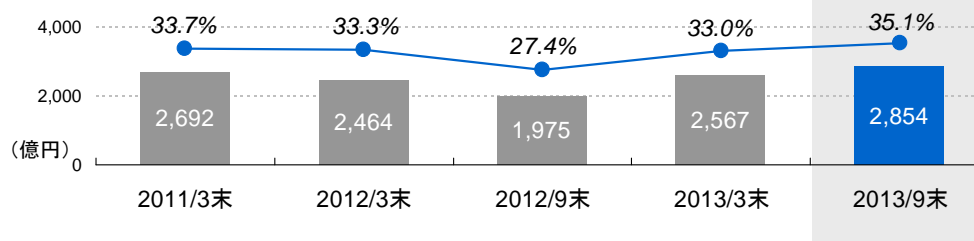
貸借対照表主要項目推移



有利子負債・有利子負債依存度



自己資本・自己資本比率



*有利子負債:リース負債を含む
*自己資本:純資産合計-少数株主持分

25

■ 貸借対照表の主要科目

- 有利子負債は、社債の発行を9月に実施したが、借入金の返済を進めたことにより 前期末に比べて 62億円減少し、総資産の有利子負債依存度は 32.7%。ネット有利子負債は、680億円となり、前期末から190億円減少。

- 自己資本は、上期業績および円安による為替換算の影響などにより、前期末に比べ 287億円増加し、自己資本比率は 35.1%。

1) 2013年度 第2四半期決算

2) 2013年度 業績予想

2013年度業績予想



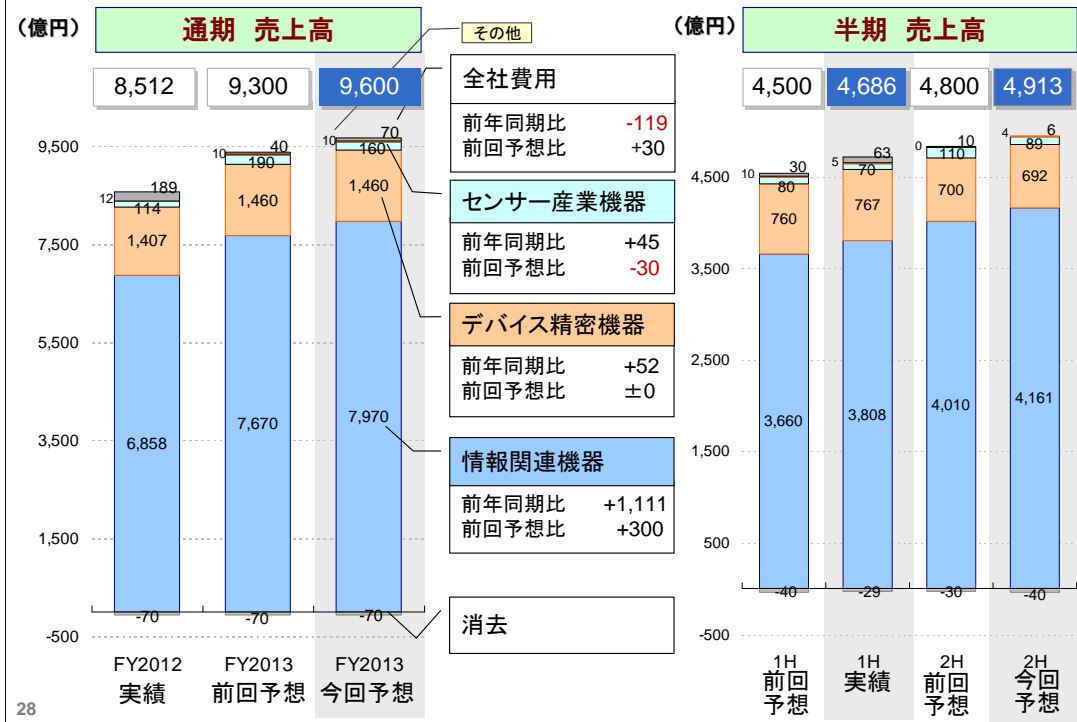
(億円)	2012年度		2013年度				増減額 / 増減率	
	実績	%	7/31予想	%	今回予想	%	前期実績比	前回予想比
売上高	8,512	-	9,300	-	9,600	-	1,087 +12.8%	+300 +3.2%
営業利益	212	2.5%	370	4.0%	580	6.0%	+367 +172.9%	+210 +56.8%
経常利益	176	2.1%	330	3.5%	550	5.7%	+373 +212.0%	+220 +66.7%
税引前利益	△34	-0.4%	260	2.8%	480	5.0%	+514 -	+220 +84.6%
当期純利益	△100	-1.2%	150	1.6%	340	3.5%	+440 -	+190 +126.7%
EPS	△56.41 円		83.85 円		190.06 円			
換算 レート	USD	83.11円	92.00円		97.00円		今回予想 3Q以降の予想前提レート USD: 95.00円 EUR: 125.00円	
	EUR	107.14円	122.00円		127.00円			

前回予想 第2四半期以降の予想前提レート
USD: 90.00円、EUR: 120.00円

27

■ 2013年度の通期業績予想

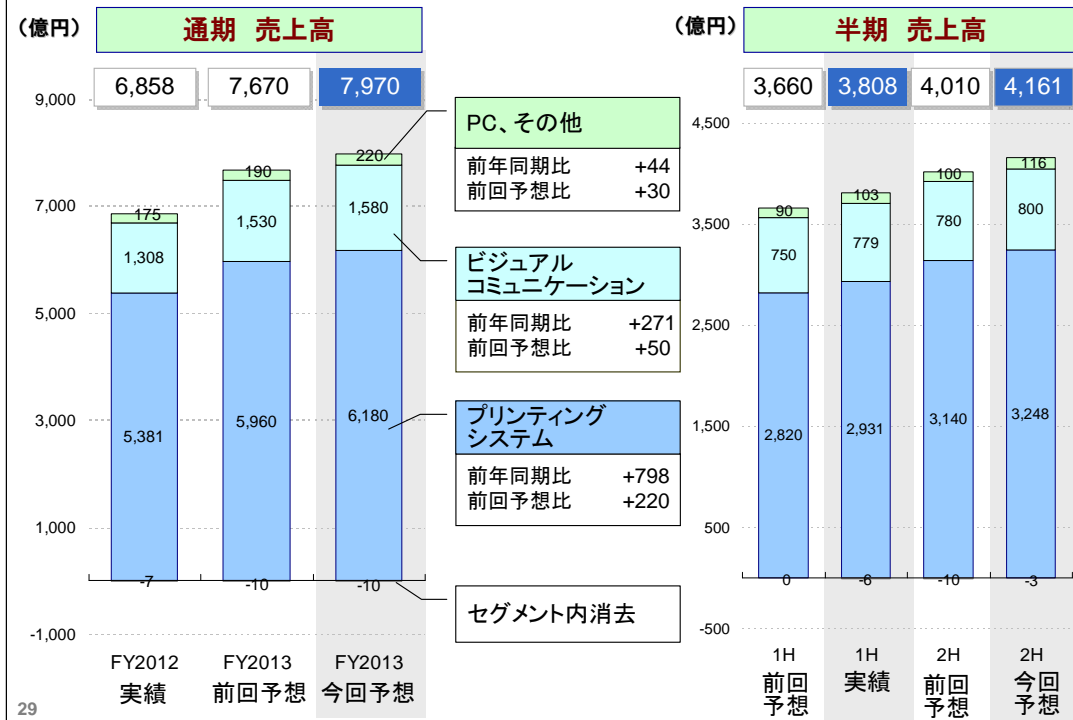
2013年度業績予想(売上高)▶事業セグメント別



■ 2013年度の事業セグメント別売上高予想、上期 / 下期別の内訳

➤ 下期の売上高は上方修正。

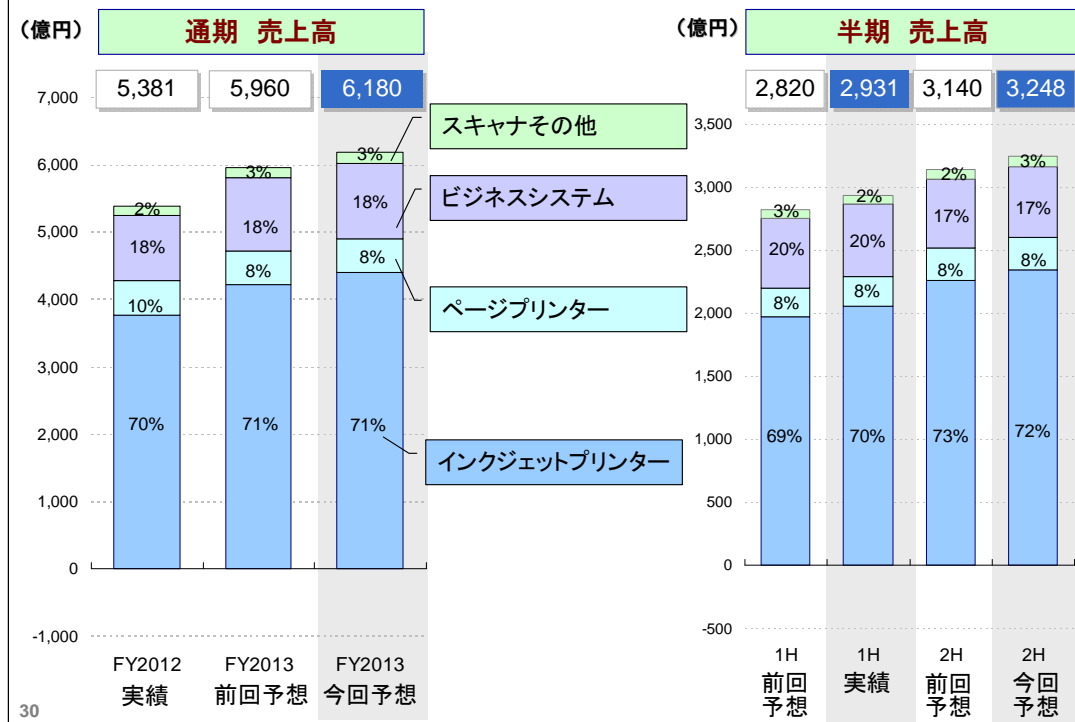
事業別売上高予想 ▶ 情報関連機器セグメント



■ 情報関連機器事業セグメントの事業部門別売上高予想の内訳

- ビジュアルコミュニケーションは、前回予想を 50 億円上回る、1,580 億円を予想。
- プロジェクターは、引き続きアジアや欧州の需要回復の遅れによる市場成長の鈍化が見込まれるが、短焦点など当社が強みを持つ競争力の高い戦略製品の拡販などに取り組むことで、前年ならびに、市場成長を上回る数量成長を見込む。

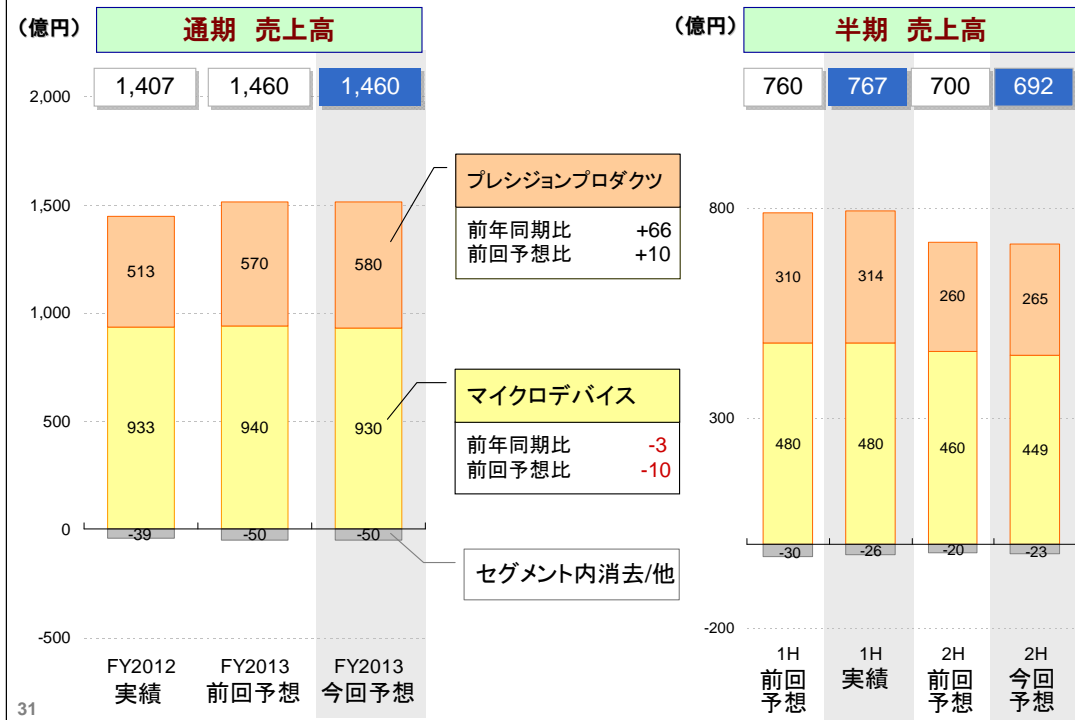
事業別売上高予想 ▶ プリンティングシステム事業



■ プリンティングシステム事業の製品別売上高予想

- プリンティングシステム事業は、前回予想を 220億円上回る 6,180億円を予想。
- インクジェットプリンターは、新興国市場は成長するものの、先進国の景気回復遅れから、市場全体では横ばいという認識に変化はない。当社は、第3四半期以降、引き続き価格維持施策は堅持しつつ、好調な大容量インクタンクモデルの販売数量の拡大に取り組む。モデルミックス改善を進めながら、通期の本体販売数量は、前回予想並みを計画。消耗品についても下期は前回予想並みの計画。
- ビジネスシステムは、POS関連製品において欧州の景気回復の遅れや、中国における飲食市場の低迷による需要減を見込むが、一方で北米の堅調な需要や、SIDMにおける中国徴税需要向けの増加などを見込む。

事業別売上高予想 ▶ デバイス精密機器セグメント

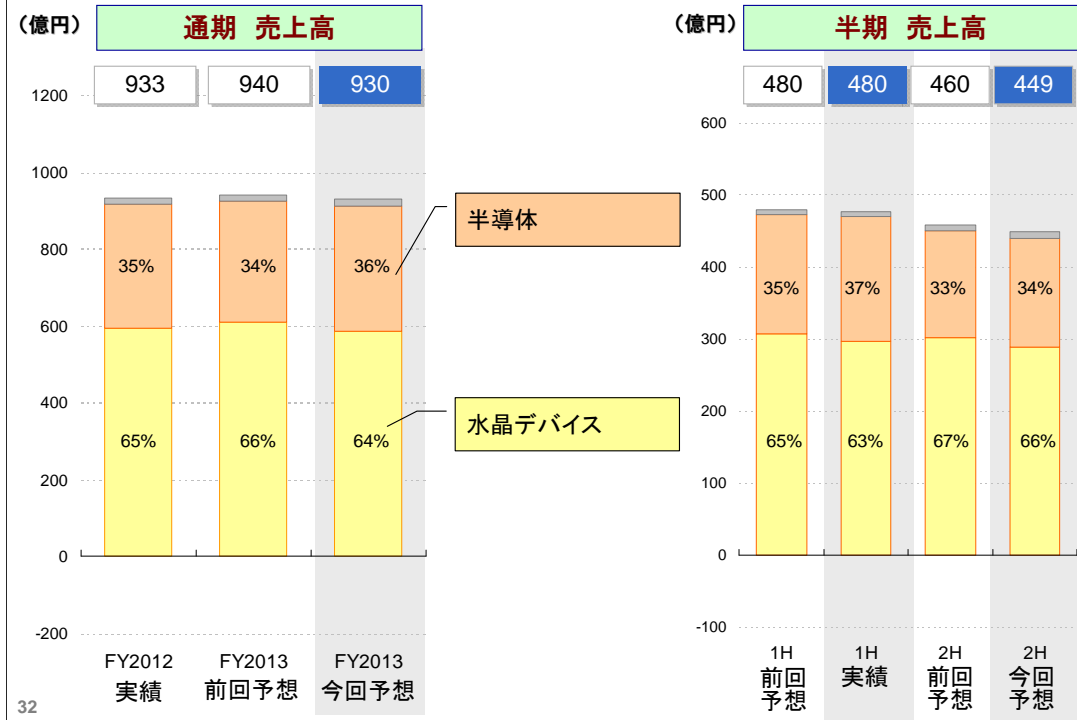


■ デバイス精密機器の事業部門別売上高の内訳

➤ プレジジョンプロダクツは

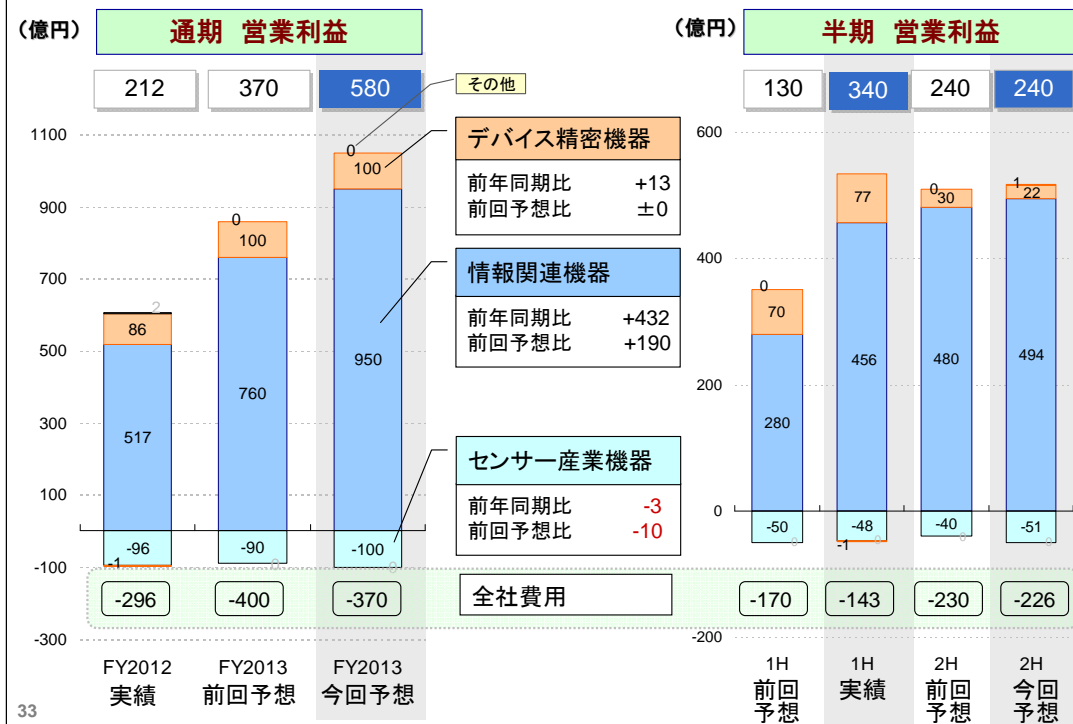
前回予想からウオッチに 大きな変化はないが、
 マイクロデバイスは売上高を見直し。

事業別売上高予想 ▶ マイクロデバイス事業



■ マイクロデバイス事業の製品別売上高内訳

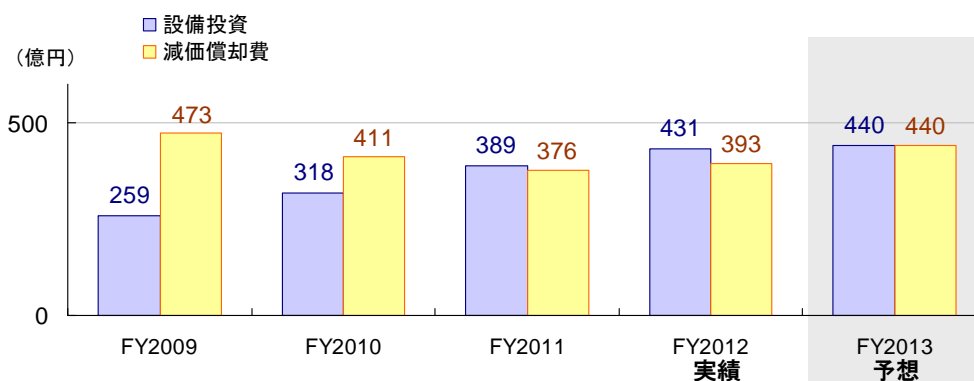
2013年度業績予想(営業利益)▶事業セグメント別



■ 営業利益の事業セグメント別予想、上期 / 下期別の内訳

- 下期の営業利益は、前回予想を据え置く。
セグメント別の内容については、前述のとおり。
- 下期営業利益 240億円の大部分を、
年間最大の商戦期である第3四半期での計上を見込む。

設備投資・減価償却費予想



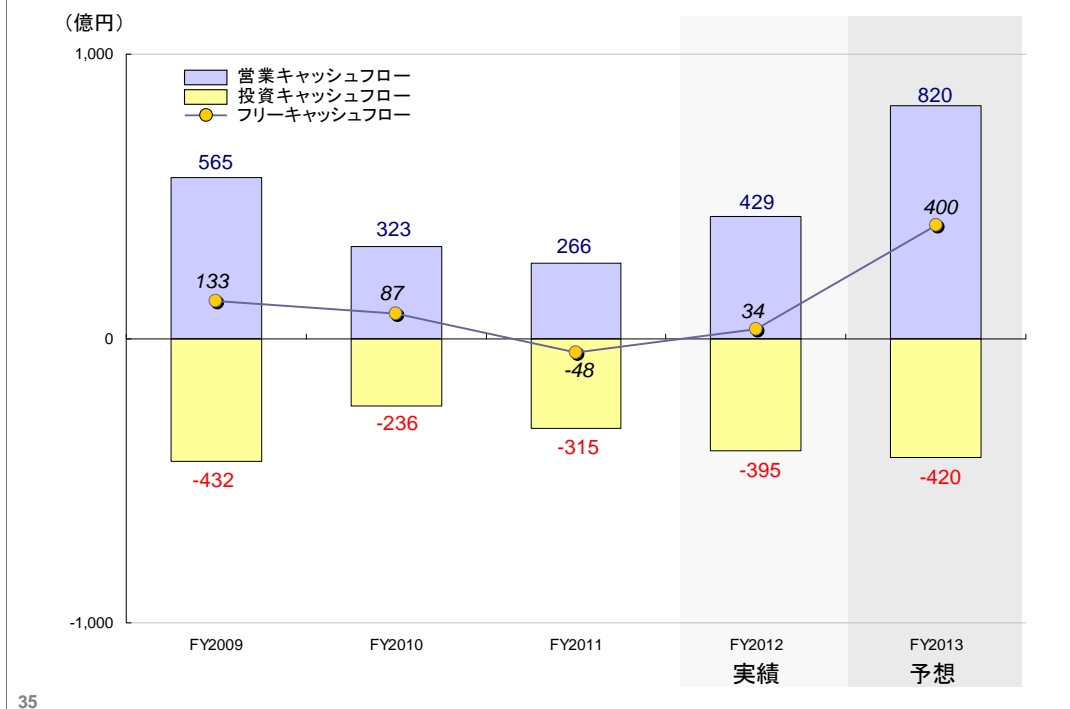
<セグメント別内訳>	FY2012実績		FY2013予想	
	設備投資	減価償却費	設備投資	減価償却費
情報関連機器	334	263	300	310
デバイス精密機器	67	80	110	90
センサー産業機器	5	5	10	10
その他・全社費用	24	43	20	30

34

■ 設備投資と減価償却費

- 設備投資と減価償却費の予想について、変更なし。

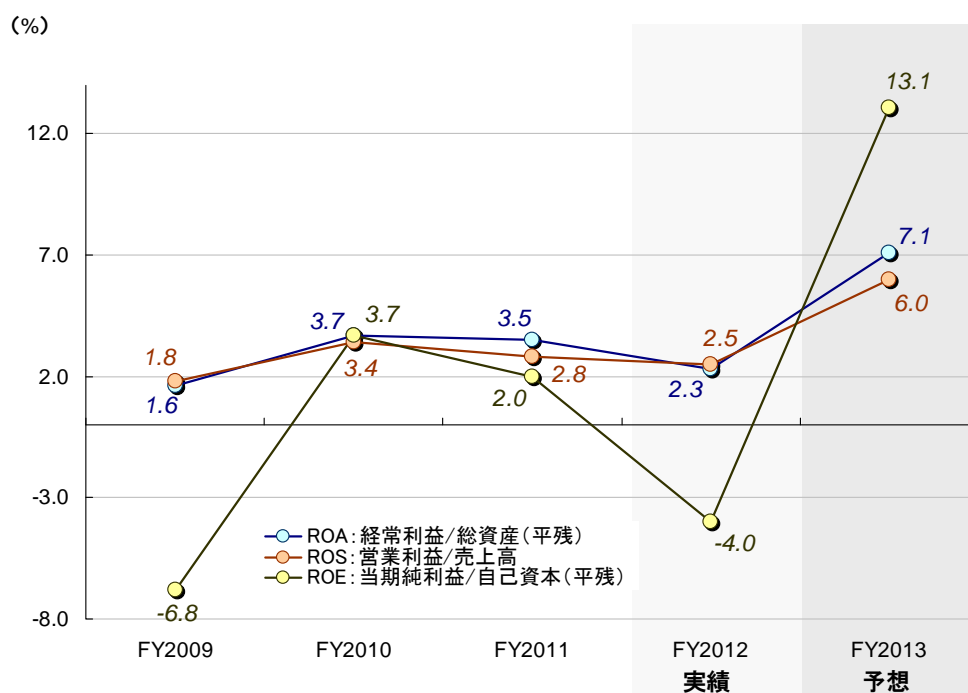
フリーキャッシュフロー予想



■ キャッシュフロー

- 業績予想の修正とともに投資の支払時期の見直しをおこない、フリーキャッシュフローは前回の200億円から400億円に見直し。

主な経営指標の推移



36

■ 主な経営指標

ROSは 6.0 %、 (営業利益率)

ROAは 7.1 %

ROEは 13.1 %

EPSON
EXCEED YOUR VISION